

平成30年度 講座概要

Ver 3.4: 2018/3/20
日程や講義概要について、都合により変更する場合があります

No	講座No	座学実習	講座カテゴリー	講師	職位	講師の所属機関	講座日付	講座時間	講義題名	講義の概要	成績証明	受講証明
1	-	-	-	伊藤 正実	教授	群馬大学	4月11日	9:30-10:30 1h	ガイダンス	地域特性を活用した「多能工型」研究支援人材養成拠点の本コンソーシアム事業の構想、目的、組織体制、教育プログラムの概要について説明する。また、外部参加の受講者のため、簡単な所属組織の紹介や自己紹介も実施する。	-	-
2	R01	座学	コンプライアンス・リスクマネジメント	伊藤 正実	教授	群馬大学	4月11日	10:40-12:10 1.5h	安全保障貿易管理の仕組みと大学における体制構築	海外との研究交流においては安全保障貿易管理について理解し、法令に遵守した手続きに従って適切な輸出管理を実施しなければならない。 講義は、基礎的な輸出管理に関する法律の枠組み、大学における安全保障貿易管理の関わりについて理解する。またリスト規制やキャッチオール規制、規制対象に該当した場合の対応方法について説明する。さらに大学の組織として十分機能する輸出管理体制をどのように構築すべきかを学ぶ。 この講義は4/12に輸出管理のテストを実施する。	講座を受講しテストで80点以上で発行	
3	R02	座学	コンプライアンス・リスクマネジメント	中田修二	教授	筑波大学	4月11日	13:10-14:40 1.5h	大学における輸出管理実務について	大学は国際的な教育・研究活動として留学生への研究指導や海外の研究者との研究交流、海外の共同研究組織への資機材や試料等の輸出など多様な活動を行っている。 講義では大学における国際的な教育・研究活動の多様な局面について、これらを安全に安心して適法に行うための輸出管理の実務的方法について事例を含めて学び、実務知識を習得する。	-	
4	R03	座学	コンプライアンス・リスクマネジメント	井上 歩	所長	一般財団法人バイオインダストリー協会	4月11日	14:50-16:20 1.5h	生物多様性条約及び名古屋議定書について	海外の遺伝資源にアクセスする場合、生物多様性条約について理解し、提供国の関係法令を遵守しなければならない。 講義では、基礎編として、生物多様性条約の下での遺伝資源へのアクセスと利益配分(ABS)の基本、名古屋議定書の概要について学ぶ。実務編では、用語の説明やABS関連法令等の調べ方など実践的な内容を習得する。 この講義は4/12に理解度を把握するためのテストを実施する。	講座を受講しテストで80点以上で発行	成績に関係なく、コンプライアンス・リスクマネジメントの座学講座 (R01,R02,R03,R04,R05,R06) 全ての受講で発行
5	R04	座学	コンプライアンス・リスクマネジメント	丹生谷 博	講師	早稲田大学	4月11日	16:30-17:30 1h	カルタヘナ法について	遺伝子組換え生物の使用等に関する法令は、研究者にとっても理解が難しい内容が含まれている。 法令違反は大学や社会にとって重大な影響を与えるため、研究支援者も一定レベルの理解を有することが必要である。 講義では、カルタヘナ法の概要及び実際の運用について学ぶ。 また理解度把握のため、簡単なテストを実施する。	講座を受講しテストで80点以上で発行	
6	R05	座学	コンプライアンス・リスクマネジメント	野内 玲	助教	信州大学	4月12日	12:20-13:50 1.5h	研究支援者の立場から見た研究者倫理と対応の考え方	URAの立場にある者は、研究者倫理におけるFFP(捏造・改訂・盗用)だけでなく、研究資金の調達・管理、知財の管理・活用等といったURAの業務に関連する様々な法令等の意味を考える必要がある。 本講義では、とりわけ社会に対する責任という観点から、研究者倫理とURAの業務の関係について理解を深める。	-	
7	R06	座学	コンプライアンス・リスクマネジメント	新谷 由紀子	准教授	筑波大学	4月12日	14:00-18:00 4h	大学における利益相反	本講座では大学において起こり得る利益相反問題とはどのようなものか、また、問題が生じた場合の影響など、利益相反に関する基礎的な知識を学ぶほか、大学における利益相反マネジメントにおいて先進的な米国の事例や日本の大学における利益相反マネジメントの現状などを紹介する。大学における利益相反マネジメントの在り方や対処方法について知識を深めてほしい。 グループ討議では具体的な利益相反事例を挙げ、その対応について議論し理解を深める。 また最後に、理解度を把握するためテストを実施する。	講座を受講しテストで80点以上で発行	
8	I01	座学	知財管理・契約	鬼頭 雅弘	教授	名古屋大学	4月17日	15:20-16:50 1.5h	大学における情報管理	共同研究等の産学連携活動の活性化に伴い、企業から秘密として保持すべき情報が大学に持ち込まれるなど、大学が企業等の秘密情報を保有し、これを取り扱う可能性が増大している。 秘密情報は、漏えいにより、情報としての価値が失われることに加え、大学や企業に致命的な悪影響を与えるおそれがあるため、適切な管理が必要となる。 本講義では、大学において、産学連携における秘密情報管理の体制づくりを行う上での課題を理解し、その対応例について学ぶ。	-	
9	I05	座学	知財管理・契約	佐田 洋一郎	知的財産センター長	山口大学	4月16日	9:30-15:00 4.5h(休憩1h含)	特許法と大学知財のかかわりについて	特許法の基礎から応用、特許取得のノウハウをはじめとして、大学の研究活動で創出された知的財産の取り扱い、特に共同研究、受託研究での注意点、研究現場での混同しがちな著作者と発明者の認定問題、研究ノートを活用したリスクマネージメント等々について学ぶ。 この講義は 4/17 に特許法のテストを実施する。	講座を受講しテストで80点以上で発行	成績に関係なく、知財管理・契約の座学講座 (I01,I02,I03,I05), 全ての受講で発行
10	I02	座学	知財管理・契約	川瀬 真	教授	横浜国立大学	4月16日	15:10-18:10 3h	研究活動と著作権	大学における著作権の問題が増え、盗作、委託作品における著作権の帰属、教育研究のために無断で著作物を利用できる範囲など、多くの問題を大学は抱えている。 講義では、まず著作権制度の概要を説明した上で、大学に関連した具体的な事例を取り上げ解説する。 この講義は 4/17 に著作権のテストを実施する。	講座を受講しテストで80点以上で発行	

平成30年度 講座概要

Ver 3.4: 2018/3/20
日程や講義概要について、都合により変更する場合があります

No	講座No	座学実習	講座カテゴリー	講師	職位	講師の所属機関	講座日付	講座時間	講義題名	講義の概要	成績証明	受講証明
11	F01	座学	ファンド申請	山口 佳和	教授	千葉工業大学	4月13日	9:30-12:00 2.5h	日本の科学技術政策の概要	ファンドは、日本の科学技術政策に基づいて、担当する組織やその制度が構築されている。このため、ファンドを申請、獲得、利用する上で、科学技術政策を理解しておくことが重要である。科学技術政策とは何か、科学技術政策の歴史、科学技術基本法、科学技術基本計画、科学技術政策の現状と課題について講義し、科学技術政策の基本的な知識を習得する。 また、科学技術政策の考え方に基づいて、ファンドに関連する施策がどのように形成されているかについて、事例を取り上げて考察し、科学技術政策への理解を深める。	-	
12	F02	座学	ファンド申請	坪田 高樹 塩野 圭介 大竹 利也	調査役 副調査役 調査役	科学技術振興機構(JST)産学連携展開部 産学連携展開部 産学共同開発部	4月13日	13:00-14:30 1.5h	JST支援事業「研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)」	JSTでは科学技術イノベーションを推進するため、産学が連携した研究開発成果の展開を支援している。 講義では、研究成果展開事業のうち研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)*にフォーカスし、研究開発フェーズに応じた各支援タイプについて詳しい事業内容について学ぶ。 *平成30年度より地域産学バリュープログラムをA-STEPに統合する予定。	-	
13	F03	座学	ファンド申請	馬場 大輔	総括グループ主査	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	4月13日	14:40-16:10 1.5h	NEDO支援事業「研究開発型中堅・中小・ベンチャー支援事業のご紹介」	NEDOは経済産業省の外郭のファンディングエージェンシーであり、環境エネルギーの分野を中心として非常に幅広い分野に対して研究開発に対する補助金事業をおこなっている。 本講義ではNEDO事業の概要及び、NEDOが取り扱う最新のファンドメニューについて学ぶ。	-	ファンド申請の座学講座(F01,F02,F03,F04)の受講かつ実習講座(F05,F06)の受講で発行
14	F07	座学	ファンド申請	松尾 浩道	経営企画部長	日本医療研究開発機構(AMED)	4月13日	16:20-17:50 1.5h	AMEDの事業について	AMEDが支援する、基礎から実用化までの医療研究開発の推進及び研究開発環境の整備に関する事業概要を紹介するとともに、AMEDが取り組む研究開発マネジメントについて概説する。	-	
15	F04	座学	ファンド申請	澤田 芳郎	URA	茨城大学	4月17日	10:30-12:00 1.5h	「メタサイエンス」としての科研費申請書チェック ～茨城大学URAオフィスでの経験から～	URAは科学それ自体や科学をめぐる状況の社会的側面、あるいは科学の社会的意味、さらにはその発揮方法に関する専門家である。ゆえに科学史、科学哲学、科学社会学など科学に関する科学の総称である「メタサイエンス」は立脚点として有効であろう。一方でURAは大学等に雇用された専門職として、科学や大学にどう貢献するかを常に意識しなければならない。本講義では科研費申請書のチェックをどのように進めるかを通して、メタサイエンスに基づくURAのあり方を考える。 茨城大学URAオフィスでは、4名のURAが科研費申請書の全件チェック(申請書への書き込みと所見書の作成)をダブルチェック体制で行なっている。チェック項目は、①研究内容が理解できることで可能となる誤字脱字の発見、②申請書の論理構造に照らした内容構成の提案が基本であるが、必要に応じて、③研究テーマそのものについても踏みこんで提言する。指摘の採否は教員に委ねられるが、特に中程度の水準の申請書でURAの関与が大きいほど採択率が上がることが確認されている。 科研費申請書に期待される要素には、「サイエンスそのもの」「読みやすさ+おもしろさとしてのリーダビリティ」「過去の研究業績」の3要素がある。URAは主としてリーダビリティに貢献するが、それを通して科学を学問的文脈、社会的文脈に位置づけ直している面もある。本講義はURAに限らず、産学連携コーディネータやサイエンスライターを目指すなど、科学の社会的意味への理解をベースに自分の職業を設計したい方々にはヒントを提供できるであろう。	-	
16	A01	座学	応用講座	伊藤 正実	教授	群馬大学	4月18日	10:30-12:00 1.5h	産学連携のコーディネート	産学連携においては、ある研究テーマに対して対応しうるかどうかがセクター毎に異なる制約条件があり、双方がこれを満たしたうえで、異セクター間の関係調整のマネジメントが機能すればプロジェクトは成立するのであるから、原理的には単純である、しかしながら、着実に成果をあげているコーディネータやURAは少数である。ここでは、実務的に見てどのようなスキルやリテラシーが必要なのか、解説する。講座のレベルの設定は本コンソーシアムでの調整能力力量評価で60点以上80点未満程度の方を意識したものとす。	-	
17	A02	座学	応用講座	木村彰吾	教授・財務担当理事	名古屋大学	4月18日	13:00-14:30 1.5h	国立大学法人の財務・会計	国立大学法人が持続的に教育研究を遂行していくためには、安定的な財源確保が必要不可欠である。国立大学法人の主たる財源は、学生納付金や附属病院の診療報酬等の自己収入に加えて、国からの支援である運営費交付金である。しかしながら、国の財政状態が厳しく、運営費交付金の増加が期待されない状況では、自己収入の一層の増加が必須であり、欧米の大学に倣い産学共同研究、知財の活用が求められるようになっていく。本講義では、国立大学法人の会計制度を紹介し、産学共同研究、知財の活用とかがかわらせて、財務マネジメントを説明する。 参考文献 青木志帆 2015『制度とお金のよもやま話 ～国立大学法人会計入門』	-	
18	A03	座学	応用講座	山本進一	名誉教授	大学改革支援・学位授与機構	4月18日	14:40-16:10 1.5h	大学の研究力評価	大学の研究力評価には、自大学の研究力をエビデンスに基づいて客観的に評価しなければならない。従来は、主観に基づいた定性的評価が主流であったが、IT技術の発達等によりビブリオメトリクスに代表されるような定量的評価が可能となってきた。本講義では、研究力を適切に評価できる可能性の高い「指標」の種類とその特性・特質について講述し、具体的な適用例を紹介する。	-	
19	A04	座学	応用講座	山本進一	名誉教授	大学改革支援・学位授与機構	4月18日	16:20-17:50 1.5h	大学経営を加味した研究戦略の立て方	国の財政悪化、受験生人口の減少、等により大学の財政状態は今後も厳しい状況が続くと予想される。このような大学経営状況下で、いかに各大学の研究力を強化し、研究人材を育成していくかについては、各大学の特性・状況に応じた研究戦略の構築が必須である。岡山大学を実例として、研究力評価の分析結果に基づくとともに経営上の視点を加味した研究戦略の構築方法の概略について講述する。	-	
20	C05	座学	企業活動	平尾 敏	代表	株式会社ステップアップ	4月19日	9:30-12:30 3h	企業分析概論	大型の共同研究契約を獲得するためには顧客の内容(強み・弱み、中期経営戦略等)を知り成長戦略の道しるべをこちらから提案する事が重要:有価証券報告書を読み取り琴線に触れる共同研究提案書を作成するにはどのようにした良いか、その方法論を習得する	-	

平成30年度 講座概要

Ver 3.4: 2018/3/20
日程や講義概要について、都合により変更する場合があります

No	講座No	座学実習	講座カテゴリー	講師	職位	講師の所属機関	講座日付	講座時間	講義題名	講義の概要	成績証明	受講証明
21	C02	実習	企業活動	星野栄一	主席研究員	花王株式会社	4月19日	13:30-17:00 3.5h	第1回 企業活動理解能力向上	この講座は、企業の経営者や幹部技術者を招き、研究開発体制や事業化する戦略について講義していただき、これをベースに当該企業における新規事業の在り方等について、グループで討議してもらおう。また、当該企業に対する所属大学のリソースを用いた産学連携の提案等といったレポートを後日提出していただき、この評価とともに、提案された内容によっては、具体化できるかどうかの検討をプレゼンをしていただいた企業にさせていただく	原則、年3回のレポート提出で発行	企業活動の座学(C05)の受講かつ実習講座(C02,C03)の受講で発行
22	C03	実習	企業活動	未定	未定	未定	10月予定	未定	第2回 企業活動理解能力向上		レポートの内容が、これまでの講義等の概要をまとめただけなど、取り組み姿勢等に問題がある場合、評価者が不合格とすることがある。	
23	F05	実習	ファンド申請	未定	未定	未定	課題:5月提出:7月評価:9月	未定	第1回 ファンド申請リライト作業	研究支援者は、科学技術基本計画から日本の科学技術政策の流れを理解し、個々のファンディングのメニューに合った申請書にする必要がある。	原則、年2回の申請書ブラッシュアップトレーニングをおこなうことで発行	ファンド申請の座学講座(F01,F02,F03,F07)の受講かつ実習講座(F05,F06)の受講で発行
24	F06	実習	ファンド申請	未定	教授	未定	課題:10月提出:12月評価:2月	未定	第2回 ファンド申請リライト作業	この実習講座では実際に申請に用いられた研究補助金申請書を題材として、このブラッシュアップをしていただき、この内容から、研究のコンテンツを理解しているか、当該事業趣旨に合致したものになっているか、十分に訴求する内容になっているかなどの観点から、評価委員と申請書を提出した研究者が評価と点数を付け、改善点を指摘する。	ブラッシュアップの内容が誤字脱字の指摘や”てにおは”の修正等、きわめて限定的な場合は、不合格とする場合がある。	
25	S01	実習	研究活動	伊藤 正実	教授	群馬大学	6月予定	未定	第1回 研究活動把握能力(学内の研究者インタビュー)	異セクター間、異分野間のプロジェクトに対する双方のセクターの間の認識のずれを理解する上で、研究支援者は、大学の研究内容だけでなく研究者のポリシーやスコープに対して一定のレベルの理解が必要である。そもそも研究支援者として活動をしていく上で研究内容の理解能力はある程度、必要なものである。 この実習講座は、年間8回(うち4回は他大学)の大学研究者へのインタビューを実施し、そこで聞いた研究内容やその特色についてレポートにまとめ発表を行う。年間4回の発表会に参加し、他の研究支援従事者と結果を共有する。 年に1回、論文を一定時間内に読み内容を把握し概要を纏めるといった、論文理解度評価テストを実施する。	①8人の研究者インタビューを実施しレポートを提出 ②論文テストで間違った記述をしていないこと ①、②で発行	研究活動実習講座(S01,S02,S03,S04)の受講かつ論文テストの受講で発行
26	S02	実習	研究活動	伊藤 正実	教授	群馬大学	8月予定	未定	第2回 研究活動把握能力(学外の研究者インタビュー)			
27	S03	実習	研究活動	伊藤 正実	教授	群馬大学	11月予定	未定	第3回 研究活動把握能力(学内の研究者インタビュー)			
28	S04	実習	研究活動	伊藤 正実	教授	群馬大学	H30.1月予定	未定	第4回 研究活動把握能力(学外の研究者インタビュー)			
29	P01	実習	プロジェクト調整能力	伊藤 正実	教授	群馬大学	5月予定	未定	第1回 プロジェクト調整能力	プロジェクトは、企画立案、プロジェクトに関する契約の構築、契約に基づいたプロジェクトの実行の3段階のプロセスがある。研究支援者は異セクター同士が連携するプロジェクト(学際領域研究を含む)で、研究者と企業との関係を調整し、プロジェクトスコープをリスクのない形で確定することに、第三者的視点から寄与することが、その実績をあげる上で必要である。 この実習講座は、受講生の関わった事例について活動報告を事前に出していただき、そこから共通課題となるものを抽出し、これをテーマに、グループ討議と発表を行う。討議の中で双方で、気づきを与え、研究支援活動の調整能力向上を図る。	6回の受講とレポートの提出で発行	プロジェクト調整能力実習講座(P01,P02,P03,P04,P05,P06)の受講で発行
30	P02	実習	プロジェクト調整能力	伊藤 正実	教授	群馬大学	7月予定	未定	第2回 プロジェクト調整能力			
31	P03	実習	プロジェクト調整能力	伊藤 正実	教授	群馬大学	9月予定	未定	第3回 プロジェクト調整能力			
32	P04	実習	プロジェクト調整能力	伊藤 正実	教授	群馬大学	12月予定	未定	第4回 プロジェクト調整能力			
33	P05	実習	プロジェクト調整能力	伊藤 正実	教授	群馬大学	H31.2月予定	未定	第5回 プロジェクト調整能力			
34	P06	実習	プロジェクト調整能力	伊藤 正実	教授	群馬大学	H31.3月予定	未定	第6回 プロジェクト調整能力			

平成30年度 実習講座の日程

実習講座	H30										H31			備考
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
ファンド申請		課	→	提	→	評	課	→	提	→	評		課: 課題提示 提: 提出 評: 評価	
研究活動			●		●			●		●			事前インタビュー	
企業活動	●						●						4月は座学と同時	
プロジェクト調整能力		●		●		●			●		●	●	事前レポート	